

地域の移り変わり

全鍍連 理事 北田 雅己

(有限会社大仙鍍金工業所／大阪府鍍金工業組合)

大暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より全国鍍金工業組合連合会の会員の皆様には大変お世話になっております。

昨年度より総務委員会の委員を仰せつかりました大阪府鍍金工業組合の北田雅己と申します。経験の浅い私ですが今後とも宜しくお願い致します。

はじめに大阪で2度開催された万国博覧会について簡単に触れさせていただきます。

1970年にExpo70が大阪千里で私が小学5年生の時に開催されました。

当時、アメリカ館ではアポロ11号コロンビア・月の石が展示されソ連館ではレーニンバッチが配られていました。

又、岡本太郎デザインの斬新な太陽の塔、内部にも入りましたが当時の私には不思議な建造物でしかなかった記憶があります。

Expo70の開催は高度成長期真っ只中で世界各国が文化技術を紹介し来場者はそれを見る万博であったように思います。

2025年の開催は先端技術を「体験・実験する」未来社会の実験場となりAR・MR技術やWeb3などなど、デジタル空間や仮想現実との融合が図られました。大屋根リングから見て取れるように再利用ができ環境に優しい木材を採用しての建造物が話題を呼びました。

その大阪府堺市で我が社が操業しています。堺市は4～5世紀、古墳群が造られ中でも日本最大の古墳「仁徳天皇陵」が有名でもある産業の街です。

堺は中世・戦国時代・黄金期、商人中心の自由都市として栄え織田信長・豊臣秀吉の時代には会合衆と呼ばれる豪商達の財力と火縄

銃・刃物・線香・わび茶「千利休」・和菓子等の製造の職人の街として栄えました。

近年ではクボタ・シマノ・コーナン等の大企業は益々の発展を遂げていますが我々の中小企業は年々廃業倒産が後を絶たないのが現状です。

弊社於いては2023年に都市開発計画による行政からの立ち退きを要請され弊社の立ち退きについては近所の喫茶店のオーナーに聞かされ驚きを隠しきれませんでした。

立ち退くにあって行政からの代替え地の検討もなされず弊社が独自で移転先の手配を余儀なくされている状況です。

弊社周辺の築10年にも満たない住宅が次々に解体され何とも無駄なことと感じてなりません。

近年の堺地域では町工場が減少しそれに変わって大型商業施設（ラポート・イオンモール・ホームセンター・マンション等）開発が進みそれに見合うかのように移転先がなければ廃業されては？と感じ取れる状況です。

そんな中、弊社としては生き残っていく為に移転先の確保に向けての計画を進めながら新しいタイプのめっき加工にも挑戦して行く所存です。

世界の情勢は非常に厳しい局面に脅かされ我々業界に於いても薬品材料等の供給等に影響が及んでいます。

ホルムズ海峡の開放に向け合意がなされようとしているなかスピーディーな国際情勢の安定が実現する事に期待したいと思います。

最後に鍍金業界・各会員各位の企業が激動の時代を乗り越え発展されることを願う次第です。